# 第６学年　国語科　学習構想案

日時　令和７年７月２日（水）
場所　６年２組教室
指導者　教諭　○○　○○

## １　単元構想

| | |
|---|---|
| 単元名 | 主張と事例の関係をとらえ,自分の考えを伝え合おう「時計の時間と心の時間」<br>（光村図書「国語　六年　創造」Ｐ５６～６５） |
| 単元の目標 | (1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。　◎〔知識及び技能〕（２）ア<br>(2) 事実と感想,意見などとの関係を叙述を基に押さえ,文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。　◎〔思考力,判断力,表現力等〕（１）ア<br>(3) 文章の構成や展開,文章の種類とその特徴について理解することができる。<br>○〔知識及び技能〕（１）カ<br>(4)文章を読んで理解したことに基づいて,自分の考えをまとめることができる。<br>○〔思考力,判断力,表現力等〕Ｃ（１）オ<br>(5)粘り強く文章を読んで,事実と感想,意見などとの関係を叙述を基に押さえ、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。　〔学びに向かう力・人間性〕 |

| 単元の評価規準 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| | ①　文章の構成や展開,文章の種類とその特徴について理解している。（（１）カ）<br>②　原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（（２）ア） | ①　「読むこと」において,事実と感想,意見などとの関係を叙述を基に押さえ,文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（Ｃ（１）ア）<br>②　「読むこと」において,文章を読んで理解したことに基づいて,自分の考えをまとめている。（Ｃ（１）オ） | ①　進んで事実と感想,意見などとの関係を叙述を基に押さえ,学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。 |

**単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）**

筆者の主張と,それを支える事例の関係を捉えながら読むことを通して,説明文を読む際に筆者の主張に対して自分の考えを持とうとする児童

| 単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題） | 本単元で働かせる見方・考え方 |
|---|---|
| 一川さんの主張についての自分の考えを伝え合おう。 | 事例の内容に着目して主張と事例がどのようにつながっているかを捉えることを通して,言葉への自覚を高めること。 |

**指導計画と評価計画**（８時間取扱い　本時　５／８　）

| 過程 | 時間 | 学習活動 | 評価の観点等<br>★は記録に残す評価の場面で「具体の評価規準」 |
|---|---|---|---|
| 一 | 2 | ○「笑うから楽しい」を読み,文章構成を捉える。<br>○主張と事例の関係に着目し、事例の効果について考える。 | 【知①】（発言・ノート）<br>○「初め」「中」「終わり」の文章構成とその捉え方について理解している。<br>【思①】（発言・ノート）<br>○主張と事例の関係を整理し,文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 |
| 二 | 4 | ○「時計の時間と心の時間」を読み,学習の見通しをもつ。<br>○文章全体の構成を捉える。<br>**○筆者が４つの事例を挙げた意図に着目し,主張と事例の関係を捉える。（本時）**<br>○筆者が挙げた４つの事例の順序について、筆者の意図を考え、説得力のある文章構成について検討する。 | 【態①】（発言・ノート）<br>○感想を基に問いを立て,どうすれば解決していけるか課題を持っている<br>★【知②】（発言・ノート）<br>○「主張」と「事例」,「全体のまとめ」に着目し,要点を捉え,文章の構成について理解している。<br>**★【思①】（発言・ノート）**<br>**○筆者が４つの事例を挙げた意図に着目し,主張と事例の関係について自分の考えをまとめている（本時）**<br>★【思②】（発言・ノート）<br>○筆者が挙げた事例の順序の意図について,自分の考えをまとめている。 |
| 三 | 2 | ○学習してきたことをもとに,筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、他者と伝え合う。<br>○学習全体のまとめと振り返りをする。 | ★【思②】（発言・ノート）<br>○文章を読んで理解したことを基に,筆者の主張に対して自分の考えをまとめている。<br>★【態①】（発言・ノート）<br>○単元を通して学んだことを,自分の言葉でまとめている。 |

## ２　単元における系統及び児童の実態

### 学習指導要領における該当箇所（内容，指導事項等）

小学校学習指導要領第５学年及び第６学年
〔知識及び技能〕（２）情報の扱い方に関する事項
〔思考力・判断力・表現力等〕「Ｃ読むこと」

### 教材・題材の価値

本単元は，筆者の主張と事例の関係を捉えることを学ぶ教材である。練習教材「笑うから楽しい」，本教材「時計の時間と心の時間」の二つの教材は共に、主張が「初め」と「終わり」にあり，「中」に主張を支える事例が示された構造になっている。また，異なる事例の内容を挙げている。そのため重ねて読むことで、主張と事例の関係を捉える力を育むことができる。主張と事例の関係を捉えるということは，筆者の意図を考えたり，自分の考えを述べる際により説得力ある文章について捉え直したりする力の基礎となる。また，筆者の説明的な文章の書きぶりに対して批判的に読む力の基礎ともなる。いずれの教材も，教材の内容と自分の経験・知識を関係づけ，自分の考えを適切に述べることについて適した教材である。

### 本単元における系統

５年「見立てる」/「言葉の意味が分かること」
事例・理由や論の展開に着目して，要旨を捉える

６年「笑うから楽しい」/「時計の時間と心の時間」
筆者の主張と，それを支える事例を捉え，自分の知識や経験と関連させながら読む。

６年「『鳥獣戯画』を読む」
筆者の考え方と資料や言葉の使い方の工夫を捉える。

６年「『考える』とは」
論の展開や表現のしかたに着目して複数の文章を読み，考えを交流する。

中１年「オオカミを見る目」
段落の役割や段落同士の関係に着目して文章の構成を捉え，内容を読み取る。

### 児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）

**■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（R７年度 町学力調査問題　R７年４月実施）（%）**

| 出題のねらい | 正答率 |
|---|---|
| ①　叙述を基に文章の内容を捉えている。 | ８３ |
| ②　叙述を基に段落の内容を捉えている。 | ６６ |
| ③　目的に応じて，文章の情報を整理している。 | ４５ |

**■本単元の学習に関する意識の状況（R７年５月実施）（%）**

| 調査内容 | はい | どちらかといえばはい | どちらかといえばいいえ | いいえ |
|---|---|---|---|---|
| ①　説明文の学習は好きですか。 | １５ | ３９ | ２７ | １９ |
| ②　教科書をすらすら読めますか。 | ２７ | ６１ | １２ | ０ |
| ③　国語の授業で「できた」「わかった」と思うことがありますか。 | ４２ | ４６ | １２ | ０ |
| ④　国語で習ったことを，「次の国語の学習でも使いたい」，「次の国語の学習にもいかせる」と思いますか。 | ３５ | ３８ | １９ | ８ |
| ⑤　国語の授業で考えているとき，友達の考えを聞きたいと思いますか。 | ５０ | ２７ | １５ | ８ |
| ⑥　自分の考えを相手に伝えたり，発表したりできていますか。 | ３８ | ４２ | １２ | ８ |

**■考察**

４月の標準学力調査の結果から見ると，叙述を基に文章の内容を捉えることに対しては正答率が６割～８割未満程度である。初めて読む説明文に対して，叙述を基に文章全体の内容の大体を捉えることはできているが，細部の内容を捉えることや，読み取った情報のつながりを意識して整理したりすることを苦手としている児童が多い。文章全体の構成を捉えた上で，叙述を基に読み進めていく基本的な読み方に加えて，一つ一つの情報のつながりを捉える読み方を身に付けていく必要がある。

意識調査の結果では，ほとんどの質問項目において７割以上の児童が肯定的な回答が見られ，ある程度意欲的に国語の学習に取り組んでいることや，前学年まで国語の授業について，積み重ねがあるということが考えられる。一方で，説明文の学習に対する肯定的回答をした児童は６割程度である。説明文教材が持つ魅力を味わうことや，自分の知識や経験と結びつけながら内容に迫ることを通して，説明文を読んで「よかった」「わかった」「面白かった」という経験を積み重ねていくことが必要がある。そのためにも，学んだことを活用していこうとする態度が育ちつつあるため，それらを活用する良さを実感できるような工夫や，ペア活動や全体での対話を意識しながら授業づくりを行っていく必要がある。よって，以下に挙げる研究の視点をもとに，学習活動の工夫を行う。

３　研究の視点

| 研究主題 |
| --- |
| **学びの自覚化を通した主体的な読み手の育成<br>～国語科「説明文教材」を中心とした授業構想～** |
| 研究の視点 |
| **（１）「問い」が生まれる導入の工夫**<br>**①　単元をつらぬく「問い」を生む工夫**<br>・他の単元である提案文を書く学習の中で,試しの提案文を書き,難しさを実感させる。その上で,「自分の考えを分かりやすく伝えるためにどうしたらよいか」と問題意識を持たせる。それを解決するために本教材を読むという,「教材を読む必要感」を持たせる。説明文を読む際には,説明文は,筆者が,自分の主張をいかに説得力を持たせて読み手に伝えるかの工夫をしていることを押さえる。本教材を読み,筆者の主張に納得するか,説得力を高めるために筆者はどんな工夫をしているかを「問い」の形で明確にする。それらを解決しながら,最後には筆者の主張について自分の考えを持って伝え合うことを学習のゴールとする。そうすることで,教材から学ぶ必要感を持つことができるようにする。<br>**②　学習の連続性を意識し,「問い」を更新していく工夫【本時】**<br>・毎時間授業の導入で,前時での振り返りや感想を電子黒板に映し,全体で共有する。毎時間の学びがつながっていることを自覚すると共に,単元をつらぬく「問い」の解決に向けた学びの価値づけをして毎時間の授業に目的意識を持って向かうことができるようにする。 |
| **（２）重点指導事項や既習事項をもとに組み立てる授業構成の工夫**<br>**①　学びの系統性を意識した単元計画の工夫**<br>・単元計画をする際に,本教材の重点指導項目を軸にすることで,本教材で確実に学ぶ必要があることは何かを明確にする。同じ重点指導項目におけるこれまでの学びや,前教材・前学年での学びを明確にすることで,既習事項をもとにした効果的なアプローチができるようにする。<br>**②　重点指導事項をもとに考える学習活動の工夫【本時】**<br>・本教材では,　叙述を基に内容を捉える中で,主張と事例の関係に着目しながら,筆者の意図を読み取る力を身に付けさせたい。５年生までの既習教材や,練習教材「笑うから楽しい」を活用しながら,　本教材と結びつけられるようにする。 |
| **（３）「わかった・できた」を実感させる「振り返り」の工夫**<br>**①　考えの共有を促す学習形態の工夫【本時】**<br>・自力解決場面,ペア対話の場面,全体での共有を意識した授業づくりを行う。自分の意見を伝えるために,自力解決の時間を確保する。その後,自分の考えの理由を説明したり,相手の考えの根拠がどこにあるのかを意識しながら聞いたりすることができるよう対話活動を取り入れる。考えた結果が他者と同じでも,その理由を共有させることで,より自分の考えを深めることができるようにする。一人では分からなかった考えに出会い,他者と考えを共有することで,自分の考えを価値づけられるようにする。<br>**②　学びの自覚化につながる振り返りの工夫【本時】**<br>・本時の学びを振り返りの視点に沿って振り返らせる。自分の言葉で振り返ることで,学びを自覚するとともに,次時の学びへの意欲付けとする。また,単元の最後には,教科書の「ふりかえろう」を活用し,「知る・読む・つなぐ」の３つの視点について,振り返りを行う。本単元で学んだことをまとめ,学びを実感させるとともに,学んだことが今後につながっていくことの見通しを持たせるようにする。 |

4　本時の学習

（1）　目標　筆者が４つの事例を挙げた意図に着目することを通して,主張と事例の関係を捉えることができる。

（2）　展開

| 過程 | 時間 | 学習活動<br>（◇予想される児童の発言） | 指導上の留意事項<br>（学習活動の目的・意図,内容,方法等） |
|---|---|---|---|
| 導入 | ５分 | 1　単元のゴール, 問いを振り返る<br>◇ゴール「一川さんの伝えたいことを読み取り, 時計の時間と心の時間の関係についての自分の考えを伝え合おう。<br>◇問い「どうやって主張の説得力を高めているのか。」 | ○学習課題を確認し, 単元を貫く問いを振り返ることで, 何のために学習をしているのかを焦点化する。 |
| | | 2　前時の学習を振り返る。<br>◇「主張」や「事例」、「全体のまとめ」を考えながら, 文章全体を「はじめ」「中」「おわり」に分けた。<br>◇3 段落から 6 段落までは, 心の時間の特性の事例が書いてあった。<br>◇双括型の文章だった。 | ○前時の振り返りを出すことで, これまでの学びを想起し, 本時の学習につなげられるようにする。<br>○前時に読み取った構成のプリントを基に, はじめ, 中, おわりにどんなことが書いてあったか大体の内容を確認する。 |
| | | 3　筆者の挙げた事例の意図について問いを持つ。 | ○「笑うから楽しい」で，事例があったことで主張の説得力が高まったことを想起させる。それと共に「時計の時間と心の時間」では，事例が４つあることに着目させ，なぜ４つも事例を挙げているか問うことでめあてにつなげる。 |
| | | **【めあて】**一川さんがこの４つの事例を挙げた意図について考えよ | |
| 展開 | ３０分 | 4　各事例の納得度を理由と共に考える。<br>◇事例１は納得できる。自分も同じ経験がある。<br>◇事例２はまあ納得できる。実験の結果だから。<br>◇事例３はほんとにそうかなと思う。<br>◇事例４は, 自分はそうじゃないと思うからあまり納得できない。<br>◇事例４は私は納得できる。 | ○それぞれの事例の伝えたいことが何だったかをワークシートから振り返らせ，各事例に対する納得度がどれくらいかを考える。その際に納得度の理由を聞くことで,各事例の内容に立ち戻らせる。内容を読み取ることで，事例の種類に気づくことができるようにする。 |
| | | 5　筆者が４つの事例を挙げた意図について考える。<br>◇身近な経験を挙げていると納得できるけど, その経験をしたことがない人だと納得できないかもしれない。<br>◇実験をしてからの結果だから信用できる。<br>◇体験は, 人によって結果が違う。<br>◇人によって事例の納得度が違う。<br>◇複数の内容の事例があることで, 主張への納得度が高まる。<br>**【期待される学びの姿】**<br>各事例が挙げられた意図に着目することで、主張と事例の関係を捉えている。 | ○経験を基にした事例１の納得度が高いことに着目させ, ４つの事例ともすべて経験を基にしたものでいいのではないかと揺さぶる。そうすることで, 筆者がさまざまな種類の事例を挙げた意図に迫ることができるようにする。<br>○各事例の納得度が人によって違うことに気づかせる。そうすることで, 筆者がさまざまな種類の事例を挙げた意図に迫ることができるようにする。<br>○筆者が４つの事例を挙げた意図に迫ることで、さまざまな種類の事例を挙げることが, 多くの人の主張に対する納得度を高めることに気づくことができるようにする。<br>**【到達していない児童への手立て】**<br>板書や,児童用のワークシートを確認しながら,一つ一つの事例の内容の納得度について個別に問い,考えを確かめていく。 |
| 終末 | １０分 | 5　本時の学習をまとめる。 | |
| | | **【まとめ】**一川さんは，経験や実験して分かったことを事例として挙げることで主張の説得力を高めようとしている。 | |
| | | 6　本時の振り返りをし, 次時の見通しを持つ。<br>◇色々な事例を挙げることで主張の説得力が高まることが分かった。 | ○「振り返りの視点」に沿って, 振り返りを行う。<br>○なぜ４つの事例がこの順番なのか問いかけ、次時につなげる。<br>**【具体の評価規準】**【思②】<br>★筆者が４つの事例を挙げた意図に着目し, 主張と事例の関係について自分の考えをまとめている（方法：発言, 発表, シート） |